

港北区洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域(想定最大規模※)

鶴見川水系河川：鶴見川、矢上川、早淵川、鳥山川、砂田川、大熊川

この洪水ハザードマップは、鶴見川水系等の河川の氾濫が予想される場合や実際に氾濫した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは「想定し得る最大規模の降雨」による氾濫を前提として予測したものです。



1 : 17,500
500m 0m 500m 1500m

河川	浸水想定区域	土砂災害警戒区域	土砂災害特別警戒区域
鶴見川	鶴見川水系浸水想定区域	鶴見川水系土砂災害警戒区域(令和5年12月現在)	鶴見川水系土砂災害特別警戒区域(令和5年12月現在)
矢上川	矢上川水系浸水想定区域	矢上川水系土砂災害警戒区域(令和5年12月現在)	矢上川水系土砂災害特別警戒区域(令和5年12月現在)
早淵川	早淵川水系浸水想定区域	早淵川水系土砂災害警戒区域(令和5年12月現在)	早淵川水系土砂災害特別警戒区域(令和5年12月現在)
鳥山川	鳥山川水系浸水想定区域	鳥山川水系土砂災害警戒区域(令和5年12月現在)	鳥山川水系土砂災害特別警戒区域(令和5年12月現在)
砂田川	砂田川水系浸水想定区域	砂田川水系土砂災害警戒区域(令和5年12月現在)	砂田川水系土砂災害特別警戒区域(令和5年12月現在)
大熊川	大熊川水系浸水想定区域	大熊川水系土砂災害警戒区域(令和5年12月現在)	大熊川水系土砂災害特別警戒区域(令和5年12月現在)

洪水浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの？

こちらの面の洪水浸水想定区域^{※1}の範囲やその深さは、想定し得る最大規模の降雨(2日間で792ミリ)を前提として、川の水があふれた場合や堤防が壊れた場合をシミュレーションにより予測したものです。

【参考】横浜地方気象台では、平成26年10月5日に24時間で約307ミリの降雨を観測しています。^{※2}

なお、この洪水浸水想定区域は、前提となる降雨を超えるような大雨、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮していませんので、着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

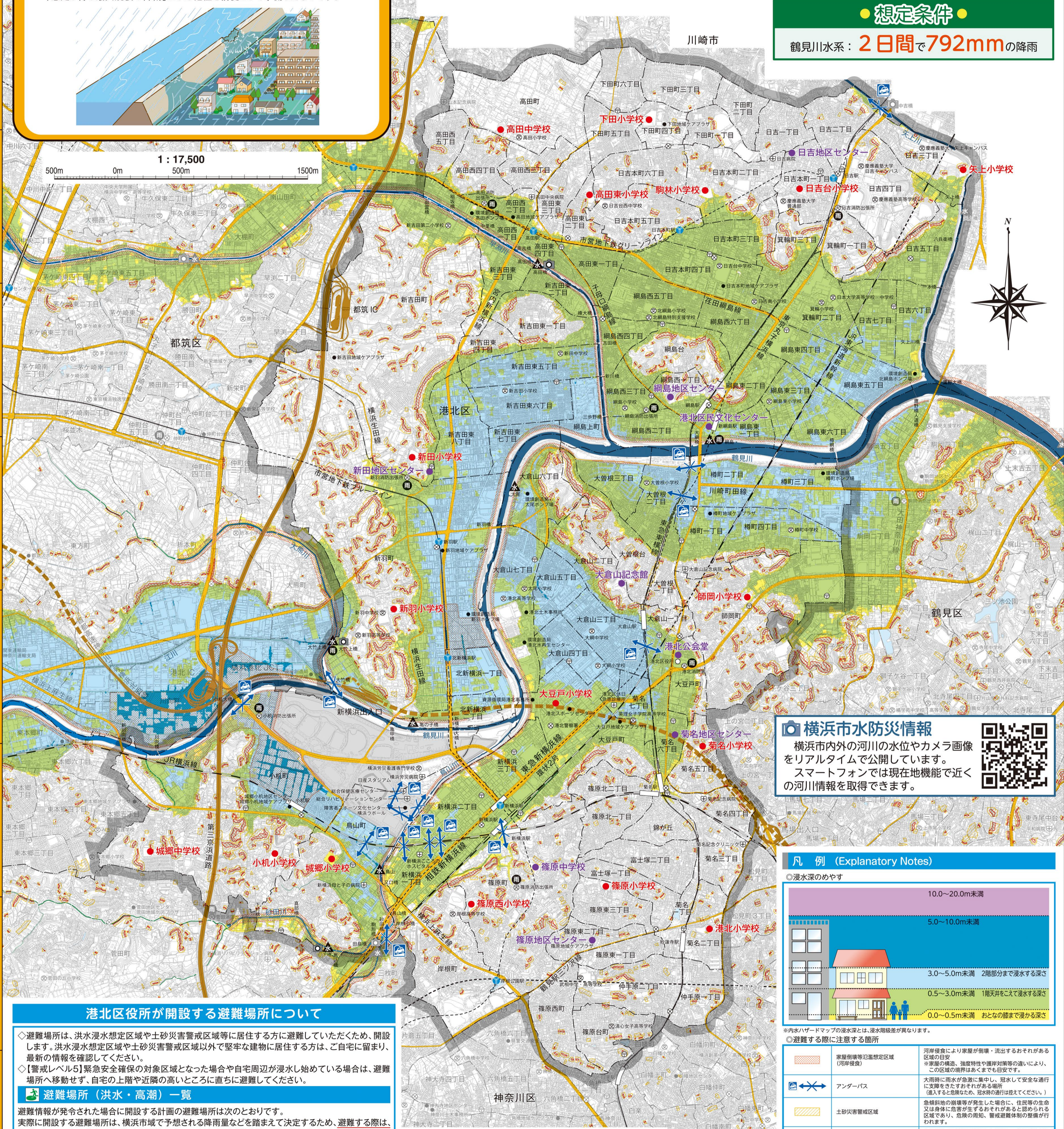
※1 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所ホームページ
(https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index070.html)

※2 横浜地方気象台ホームページ
(<https://www.jma-net.go.jp/yokohama/>)



想定条件

鶴見川水系：2日間で792mmの降雨

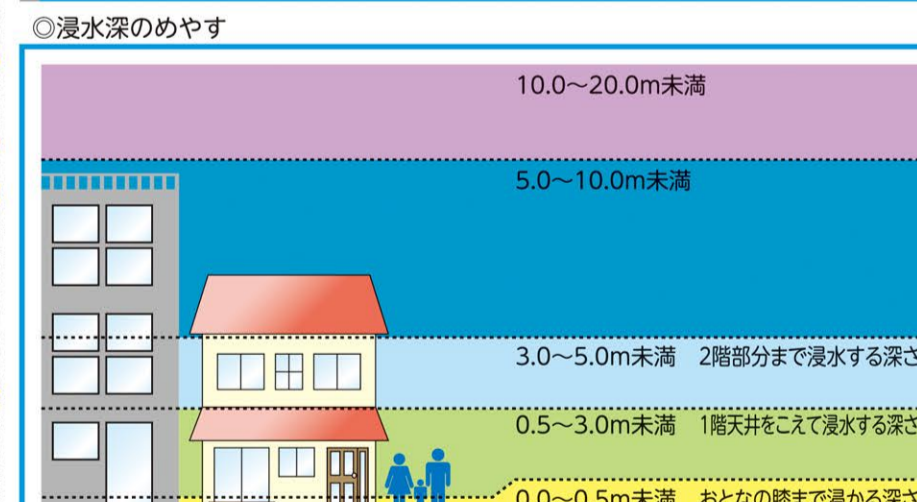


横浜市水防災情報

横浜市内外の河川の水位やカメラ画像をリアルタイムで公開しています。スマートフォンでは現在地機能で近くの河川情報を取得できます。



凡例 (Explanatory Notes)



※内水ハザードマップの浸水深とは、浸水開始直後を指します。

避難する際に注意する箇所

	東屋等浸水想定区域(河岸浸水)	河岸浸水により東屋が倒壊・流出するおそれがある区域の構造、強度特性や堤防等の違いにより、この区域の境界はあくまでも目安です。
	アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所(進入すると危険なため、冠水時は通行は控えてください。)
	土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危険が生ずるおそれがある区域で、危険の周知、警戒避難体制の整備に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。
	土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、崩壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危険が生ずるおそれがある区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。
	鶴見川多目的治水地(国土交通省管理)	鶴見川の洪水を一時的に取り込み溜めることで氾濫を防ぎ、周辺地域や下流域を洪水の危険から守る治水施設(洪水時には水が流入するよう注意が必要です。)
	一級河川(国土交通省管理区域) 浸水想定区域作成対象河川(鶴見川、矢上川、早淵川、鳥山川)	河川法適用河川(横浜市管理)
	一級河川(神奈川県管理指定区域) 浸水想定区域作成対象河川(鶴見川、早淵川、大熊川)	その他の河川(横浜市管理) ※市街化区域のみ
	一級河川(横浜市管理区域) 浸水想定区域作成対象河川(鳥山川、砂田川)	
	都県界	高速道路・有料道路
	市区界	主要道路
	町丁目界	避難場所
	J R線・駅	雨量観測所
	私鉄線・駅	水位観測所
	市営地下鉄線・駅	河川監視カメラ

港北区役所が開設する避難場所について

◇避難場所は、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域等に居住する方に避難していただくため、開設します。洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域以外で堅牢な建物に居住する方は、ご自宅に留まり、最新の情報を確認してください。

◇【警戒レベル5】緊急安全確保の対象区域となった場合や自宅周辺が浸水し始めている場合は、避難場所へ移動せず、自宅の上階や近隣の高いところに直ちに避難してください。

避難場所(洪水・高潮)一覧

避難情報が発令された場合に開設する計画の避難場所は次のとおりです。

実際に開設する避難場所は、横浜市で予想される降雨量などを踏まえて決定するため、避難の際は、必ず、市・区のウェブサイト、横浜市避難ナビ、テレビ(データ放送)等で開設状況を確認してください。

指定緊急避難場所	避難場所
日吉台小学校、港北小学校、菊名小学校、新田小学校、高田中学校、篠原小学校、下田小学校、篠原西小学校、高田東小学校、新羽小学校、小机小学校、城郷中学校、城郷小学校、矢上小学校、駒林小学校、師岡小学校、大豆戸小学校	篠原中学校、港北公会堂、菊名地区センター、日吉地区センター、新田地区センター、網島地区センター、篠原地区センター、大倉山記念館、港北区民文化センター

また、避難対象区域外の方が災害に備えて自主的に避難する場所として、指定緊急避難場所に加え、次の施設を自主避難場所として開設する場合があります。

一部の指定緊急避難場所、自主避難場所については、降雨量によっては浸水することが想定されます。避難にあたっては、避難場所の開設状況を確認し、必ず洪水浸水想定区域外の避難場所を選択するようにしてください。

▼2日間で400mm以上の降雨がある場合は、港北区区内では広範囲での浸水が予想されており、避難場所の数が圧倒的に不足することが想定されますので、安全な場所にある親戚、知人の家、宿泊施設等への避難を検討してください。

港北区内の指定緊急避難場所には、このような看板が設置されています。

開設される避難場所は、予想される降雨量によって異なりますので、必ず複数の避難場所を日頃から確認しておきましょう。

